

手順、設計、配置

バイオとデザインの接点をめぐって

Procedure, Plan, Layout: On the Contact Points between Bio and Design

現代芸術の領域において、バイオアート／バイオデザインと呼ばれる表現は、作品の内に実験手続きを導入させることや、生きものを作品要素として機能させることから「デザイン」との接点をもつ。そのなかでも今回は、バイオをめぐる表現と展示の手順や設計、配置に生じる諸問題について議論したい。



2022年 6月20日 [月] 17:00-19:00

【会場】 オンライン開催（下記、申込フォームからお申込みください。別途、Zoom URLを送ります。）



長谷川紫穂 Shiho Hasegawa

専門は近現代芸術論（美術史、デザイン学）。特に近代以降の芸術表現とテクノロジー／サイエンスの交差について、映像文化、メディアアート、バイオアート／バイオデザインの観点から研究を進める。埼玉大学大学院文化科学研究科博士課程単位取得退学。

現在は慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo) の所員として、展覧会企画および現代アート／デザインのプロジェクトに携わる。

【お申込み】 ご関心のある方はどなたでも自由に参加できます。
参加ご希望の方は、下記申込みフォームからお申込みください。
* 締切：6月19日まで

<https://forms.gle/JdiCXDtZ4e4vdrD8>

【お問合せ】 古賀徹（九州大学芸術工学研究院）
designfundamentalsseminar@gmail.com

【主催】 九州大学大学院芸術工学研究院 デザイン基礎学研究センター
www.kidnext.design.kyushu-u.ac.jp/cdfr/

【共催】 九州大学芸術工学部芸術工学科未来構想デザインコース



申込フォーム